

連載

竹取物語のものがたり (1)

西村昌能 (京都府立洛東高等学校)

1 はじめに

竹取物語は日本では誰でも知っている有名な物語です。この物語は月と関係があります。この物語は平安時代初期にできたと思われるので、京都とも深い関係があります。そこで竹取物語の事を少し調べてみました。

2 竹取物語の成立

竹取物語が、平安文学を代表する文学の一つであることに異議を唱える人はいないでしょう。

竹取物語が「物語」のはじめとして出てくるのが、源氏物語です。源氏物語の絵合の巻には、「まづ、物語の出で来はじめの祖 (おや) なる竹取の翁に、うつほの俊蔭を合はせて争ふ。」とあります。絵合というのは、宮中の貴人たちが右と左に分かれて物語絵や絵巻物を出し合い、その物語の内容や出来を競いあうなかでそれにかかわる和歌を比べあうものです。源氏物語では、竹取物語に宇津保物語の俊蔭の巻をきそわせたのでした。つまり、源氏物語の成立期 (寛弘五年 1008) には、日本文学の祖として認知され、宮廷の女房たちに広く読まれていたと考えてよいでしょう。



左図 源氏物語絵合わせ [1]

右図 京都大学附

属図書館所蔵 谷村文庫 『竹取物語抄』 [2]

年代的には、嵯峨天皇の御代(809-823)およそ『白氏文集』伝来の承和(847)以後、和歌の歌風から貞観年間(859-876)、さらには『古今集』撰進前後の延喜五年(905)、天曆(947-957)あたりまで、と考えている学者が多いようです。

3. 竹取の作者

では、この作品は、誰によって書かれたのでしょうか。王朝文学における物語には作者の名前を作品に書きません。源氏物語は偶然紫式部日記が残っていましたが作者がわかっているのです。竹取物語の作者として名前が出てくるのが空海とか遍照、源順(みなもとのしたごう)、源融(みなもとのとおる)、紀長谷雄(きのはせお)で、斎部氏や漆部氏と関係した人物であるという説まであります。どれも男性です。それというのも、漢文体の文章をひらがな文に書き直したように考えられるからです。文学的にみて、素晴らしいものであるということはまちがいありません。しかし、その反骨精神というか、反体制的な書きよう、権力に対する皮肉は、時の権力者、藤原家の係累ではないでしょう。例えば、竹取物語に類似のものとして天女伝説があります。この天女伝説の大半は、地上人と婚姻後、羽衣を取り返して天に戻るという形を取っています。ある意味めでたし、めでたしの形で終わるのですが、一方、かぐや姫は言い寄る貴人に無理難題をふっかけ、彼らのズルを見破り、帝の思召しに対しても「是非にともというなら、わらわを殺せ。」とばかり拒絶し月へ還ってゆきます。このような天皇や貴人に対する痛烈な批判が荒唐無稽な竹取物語をいわゆる伝承から、物語として分離するゆえんであるのです。

竹取物語の写本は鎌倉時代までのものはすでに失われています。一番古いものが、山科の毘沙門堂に所蔵される、後光厳院御筆とされるものらしいです。これすら、「本文の火鼠の皮衣」九行分です。また、ほんの最近発見された大東文化大の「伝後光厳院宸翰『竹取物語』切」も同じ書の片割れでしょう。他は室町中期以降のもので、つまり竹取物語は、近世以降の写本しかないのです。それ故、本文は、著作された当時からは、たいぶの変形を被っていると考えて良いでしょう。なお、私たちが読み親しんでいる竹取物語は江戸時代の流布本を校訂したものです。(続く)

文献

[1] 緒方のぶ子氏の HP

<http://www.d3.dion.ne.jp/~teruken/genji/eawase.htm>

[2] <http://edb.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/t202/image/01/t202s0022.html>